

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会
(事務局 圓藤吟史)
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学医学部環境衛生学教室内
FAX 06-6646-3160
発行責任者(地方会長) 堀口俊一

第41回 近畿産業衛生学会

主催 日本産業衛生学会近畿地方会

学会長 小泉 昭夫 (京都大学大学院医学研究科・社会健康医学系専攻・環境衛生学分野教授)

日	時	平成13年11月10日(土) 9:30~17:00	
会	場	京大会館	1階 102号室 (第1会場・午前 一般講演、午後 評議員会)
			2階 211号室 (第2会場・一般講演)
			2階 212号室 (第3会場・一般講演)
			2階 215号室 (幹事会)
			2階 210号室 (特別講演、ワークショップ、懇親会)
一般講演		10:00~12:24	
特別講演		14:00~15:00	「代替フロンによる健康障害」 大前和幸 (慶應義塾大学医学部教授) 座長 小泉昭夫 (京都大学大学院医学研究科教授)
		15:00~16:00	「アスベスト塵肺の近年の知見」 井口弘 (兵庫医科大学教授) 座長 小泉昭夫 (京都大学大学院医学研究科教授)
ワークショップ		16:00~17:00	「法的に見た知る権利とリスクコミュニケーション」 稲葉一人 (元検事、京都大学大学院医学研究科院生) 座長 大脇多美代 (富士銀行大阪健康管理センター)
幹事会		12:30~13:20	(2階:215号室)
評議員会		13:25~14:00	(1階:102号室)
懇親会		17:30~	(2階:210号室)

学会開催にあたって

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻環境衛生学分野

小泉 昭夫

秋深まる京都の地で、第41回近畿産業衛生学会をお世話させていただきますことを大変光榮に存じます。会場となります京大会館は、京都大学医学部の近くに存在します。交通は少々ご不便をおかけしますが、お許しください。午前の部は、例年通り35題の一般演題の発表を、午後は、特別講演2題、ワークショップを予定しております。

特別講演は、「代替フロンによる健康障害」慶應義塾大学医学部教授、大前和幸先生、「アスベスト塵肺の近年の知見」兵庫医科大学教授、井口弘先生の2題を予定しており、ワークショップは、「法的に見た知る権利とリスクコミュニケーション」元検事である京都大学大学院医学研究科院生 稲葉一人先生を予定しております。

大前先生は、フロン代替物質の毒性に世界に先駆けいち早く注目され我が国で多くの労働災害が発生していることを見いだされ現在もその動向に注目し取り扱い作業者の安全の確保を目指しておられます。また大前先生は、近年国際的にも成長しているJournal of Occupational Health、産業衛生学雑誌の編集長でもあります。フロン代替物質の使用動向、臨床像、毒性メカニズムなど最先端を語っていただけるものと思います。

井口先生は平成12年より兵庫医科大学の教授に就任されました。現在まで重金属の毒性学を研究してこられ、近年は培養細胞を用いた酸化ストレスを初めとする細胞ストレスに関する研究を精力的に行っておられます。アスベストは現在でも重要な環境汚染物質でもあり産業現場でも問題となることの多い物質です。細胞ストレスの面からアスベストの毒性メカニズムの解明の現状についてお話ししていただきます。

稲葉先生は、元検事であり、現在京都大学の公衆衛生大学院で社会人大学院学生として研究に従事しています。近年情報公開は多くの場面で必要とされますが情報公開にともない多くの有害性情報も公開されます。その際に、正確なリスク伝達を如何に行うかは重要な課題であります。現在ちまたでは、How-to物の技法としてのリスクコミュニケーションが強調されていますが、一度知る権利との関係で整理し見直すことは、リスクコミュニケーションの改善に有効と考えます。座長は大脇多美代(富士銀行大阪健康管理センター)先生にお願いする予定です。

上記3テーマについて、会員諸氏の自由闊達な討論を願っております。

会員の先生方の多数のご来京を心よりお待ち申し上げます。

第41回近畿産業衛生学会プログラム

第1会場 (京大会館・1階 102号室)

- (10:00~10:36) 座長 中島美繪子
(神戸市看護大・看護・保健看護学)
- 101 「安全・衛生委員会の実質化及び活性化のための提言(1)」
○三柴丈典(近畿大・法・近畿地方会労働衛生法制度研究会)
- 102 「安全・衛生委員会の実質化及び活性化のための提言(2)」
○三柴丈典(近畿大・法・近畿地方会労働衛生法制度研究会)
- 103 職域におけるアンケート調査と健診結果の解析
—健康管理評価の試み—
○古澤俊一¹⁾、益江毅²⁾、寺井知博²⁾、広田昌利²⁾、三好佳子¹⁾、辻中克昌¹⁾、太田黒規子¹⁾、日高秀樹¹⁾ (1) 三洋電機連合健康保険組合保健医療センター、²⁾ 三洋電機産業保健センター)
- (10:36~11:12) 座長 車谷典男(奈良医大・衛生)
- 104 産業看護活動の実態
～第4回近畿産業看護部会運営に関する調査結果より～
○西内恭子(大阪ガス健保) 植本寿満枝(日本予防医学協会) 石山珠江(キャンソ販売) 上田進子(NTT兵庫) 上田美代子(大阪産保C) 大腸多美代(富士BK) 岡田治子(大阪産保C) 沖中奈美子(松下健保) 鮫島真理子(松下健保) 師藤まり子(東洋電波) 鈴木純子(日本IBM) 長澤孝子(積水化学) 中島美繪子(神戸市看護大) 中村俊子(松下健保) 吉田広子(JR西日本) -近畿産業看護部会-
- 105 健康管理室のPRと社員の活性化をめざした取り組みについて
—ウォーキングの歩数を地図上で競うゲームとその経過を広報して—
○梶岡恵子、久保田かおる、加藤憲忠、古木勝也、朝枝哲也、池田正之((財)京都工場保健会)
- 106 管理職と一般職における健康状況、生活習慣の比較検討
○上原新一郎、大見甫(大阪鉄道病院保健管理部) 圓藤吟史(大阪市大・院医・環境衛生)
- (11:12~11:48) 座長 西内恭子(大阪ガス(株)人事部健康推進チーム)
- 107 Let's 煙除開 快適職場づくり
○名井美佐子、塩路なつ美、竹本佳子、丸山直子、中家和子、岡田好、古賀才博、長井聡里(松下電工(株)本社健康管理室)
- 108 勤労男性におけるBMIの5年間の変化に関連する要因の検討
○一色百合子、森本兼襄、竹下達也(大阪大・院医・社会環境医学(環境医学))
- 109 「血圧測定を中心とした生活習慣病監視ネットワークシステム」の実用化段階状況と新しいプロジェクトについて
○佐藤弘昭、加藤俊夫、神幹雄、石村重明、奥田武正、小谷隆子、小淵啓子、原田文子(三菱電機(株)系統変電・交通システム事業所健康増進センター)
- (11:48~12:24) 座長 山田誠二(松下産業衛生科学センター)
- 110 職域における高脂血症治療と健診成績
○鍵谷俊文、日高秀樹、久保田昌詞、岡田章、瀧本忠司、田中健一、玉井正彦、芦田敬一、吉川博通、中村幸二、前田宏明、古澤俊一、寺井知博、益江毅、田邊淳、大東正明、後藤浩一、中田一洋、加藤俊夫、岡田章(大阪大・病態情報内科・産業医学研究会生活習慣病実態調査グループ)
- 111 B型およびC型肝炎ウイルス検査後ウイルス陽性者の1年間フォローアップの効果について
○杉原久子、加藤俊夫、神幹雄、奥田武正、藪田良一(三菱電機(株)系統変電・交通システム事業所健康増進センター)
- 112 健診にみられた「死の四重奏」の臨床像に関する検討
○瀧本忠司(ダイハツ(株)京都工場診療所)、田邊淳、大東正明(ダイハツ保健センター)

第2会場 (京大会館・2階 211号室)

- (10:00~10:48) 座長 河合俊夫(中央労働災害防止協会)
- 201 実験的モノクロー酢酸皮下投与後の致死毒性の機序について
○年名優美、土手友太郎、白田寛、清水宏泰、富永美果、川崎隆士、岩井順子、河野公一(大阪医大・衛生・公衆衛生)
- 202 実験的モノクロー酢酸皮下投与後の腎毒性について
○清水宏泰、土手友太郎、白田寛、富永美果、年名優美、岩井順子、後藤英太、河野公一(大阪医大・衛生・公衆衛生)
- 203 実験的モノクロー酢酸皮下投与後の動脈血への影響
○富永美果、土手友太郎、白田寛、清水宏泰、年名優美、岩井順子、河野公一(大阪医大・衛生・公衆衛生)
- 204 ピロール化学反応後の有害副生成物について
○土手友太郎¹⁾、渡辺丈真¹⁾、白田寛¹⁾、清水宏泰¹⁾、小泉千里¹⁾、中瀬恵美子¹⁾、河野公一¹⁾、原田章²⁾、土居一英²⁾、梅田靖子²⁾、今田晶子²⁾ (1) 大阪医大・衛生・公衆衛生、²⁾ 関西労働衛生技術センター)
- (10:48~11:36) 座長 竹下達也(大阪大・院医・社会環境医学)
- 205 塗装作業者のトルエン中毒が疑われた一例
○山本博一¹⁾、南佳宏¹⁾、宮井信行¹⁾、王天奎¹⁾、森岡郁晴¹⁾、宮下和久¹⁾、河合俊夫²⁾、神吉しづか³⁾、(1) 和歌山医大・衛生、²⁾ 中災防大阪センター、³⁾ 和歌山医大・神経内科)
- 206 ジクロロメタンおよび一酸化炭素暴露後の一酸化炭素ヘモグロビン
○寺本敬子、清田郁子、圓藤吟史(大阪市大・院医・環境衛生)
- 207 平均濃度とピーク濃度との関係
—室内ホルムアルデヒド濃度を例にして—
○圓藤陽子、原一郎(関西医大・公衆衛生)
- 208 パラフィン系有機溶剤の血中代謝物のGC/MSによる検索
○小松真吾、山本良二、増井秀久、小泉直子(兵庫医大・公衆衛生)
- (11:36~12:24) 座長 朝枝哲也((財)京都工場保健会産業保健部)
- 209 職域集団における精神的ストレス、性格と血圧値との関連性
○竹下達也¹⁾、森本兼襄¹⁾、丸山総一郎²⁾ (1) 大阪大・院医・社会環境医学(環境医学)、²⁾ 神戸親和女子大・文・人間科学)
- 210 子育て期就労女性の抑うつ感に関わる属性の検討
○瀬戸昌子¹⁾、森本兼襄¹⁾、丸山総一郎²⁾ (1) 大阪大・院医・社会環境医学(環境医学)、²⁾ 神戸親和女子大・文・人間科学)
- 211 某地方公務員男性職員のメンタルヘルスとソーシャルサポート
○川口貞親(神戸市看護大)、豊増功次、吉田典子(久留米大・健康・スポーツ科学センター)、日野明日香(久留米大・院医・健康科学)
- 212 医療事故防止のための産業衛生的視点からの取り組み
—医療現場におけるリスク評価—
○井上佳代子、嘉田晃子、吉永侃夫、小泉昭夫(京都市大・院医・社会健康医学・環境衛生)

第3会場 (京大会館・2階 212号室)

- (10:00~10:48) 座長 和田安彦(兵庫医大・衛生)
- 301 唾液中のアレルゲン特異的IgAとアレルギー症状の関係
○辻田敏、森本兼襄(大阪大・院医・社会環境医学(環境医学))
- 302 フッ化物持続投与による経時血中フッ素濃度および肝腎毒性について
○西浦啓之、土手友太郎、白田寛、田川輝輝、明石光也、福富昭伯、有末正敏、渡辺丈真、河野公一(大阪医大・衛生・公衆衛生)

- 303 Perfluorooctane sulphonateの生体への影響について
○櫻澤博文 (洛和会音羽病院健診センター)
- 304 カドミウム暴露により発現が増加するストレス蛋白 mRNAの検出
○李明鏡、西尾久英、綾木仁、住野公昭 (神戸大・院医・環境応答医学・環境医学)
- (10:48~11:36) 座長 圓藤陽子 (関西医大・公衆衛生)
- 305 石綿等無機繊維物質がマクロファージ系培養細胞のニトロソチオール産生に及ぼす影響
—新規の蛍光物質による測定—
○西池珠子、和田安彦、井口弘 (兵庫医大・衛生)
- 306 ICP発光プラズマ分析による尿中ニッケルの測定
—第1報—
○小泉千里¹⁾、土手友太郎¹⁾、臼田寛¹⁾、清水宏泰¹⁾、中瀬恵美子¹⁾、川崎隆士¹⁾、渋谷保之¹⁾、河野公一¹⁾、今田晶子²⁾、梅田靖子²⁾、土居一英²⁾、原田章²⁾ (大阪医大・衛生・公衆衛生、²⁾ 関西労働衛生技術センター)
- 307 ステンレス材のアーク溶接下請け作業での事故例と事故発生の背景
○和田安彦¹⁾、渡辺敦²⁾、田中博之²⁾、武藤一³⁾、西池珠子¹⁾、井口弘¹⁾ (兵庫医大・衛生、²⁾ 秋田大・医・救急医学、³⁾ 秋田大・環境安全センター)
- 308 手持ち振動工具取扱者の手指冷え症状とサーモグラムの関連
○坂口俊二、富田耕太郎、南佳宏、山本博一、寺田和史、宮井信行、森岡郁晴、宮下和久 (和歌山医大・衛生)
- (11:36~12:12) 座長 宮下和久 (和歌山医大・衛生)
- 309 フォークリフト座席の全身振動に関する評価と対策
○辻村祐次、埤田和史、北原照代、富岡公子、西山勝夫 (滋賀医大・予防医学)
- 310 Multiple Risk Factor保有者の実態調査
○原俊之、郷司純子 (三菱重工業(株)神戸造船所)、深野茂、土屋五郎 (三菱神戸病院)
- 311 VDT作業におけるドライアイに関する調査 (第二報)
○川原正一、倉下直己、日野孝、堀口俊一、岩田清治 (日本予防医学協会) 木下茂、横井則彦 (京都医大・眼科) 坪田一男 (東京歯科大・眼科) 圓藤吟史 (大阪市大・院医・環境衛生)

12:30~13:20 幹事会：京大会館・2階 215号室

13:25~14:00 評議員会：京大会館・1階 102号室

14:00~17:00 京大会館・2階 210号室

特別講演 14:00~15:00

「代替フロンによる健康障害」

大前和幸 (慶應義塾大学医学部教授)

座長 小泉昭夫 (京都大学大学院医学研究科教授)

- 15:00~16:00
「アスベスト塵肺の近年の知見」
井口弘 (兵庫医科大学教授)
座長 小泉昭夫 (京都大学大学院医学研究科教授)
- ワークショップ 16:00~17:00
「法的に見た知る権利とリスクコミュニケーション」
稲葉一人 (元検事、京都大学大学院医学研究科院生)
座長 大脇多美代 (富士銀行大阪健康管理センター)

17:30~ 懇親会：京大会館・2階 210号室



会場への交通機関

- JR京都駅より
市バスD2のりば 206番 (東山通 北大路バスターミナル行)
「京大正門前」(所要時間 約40分)下車 徒歩約5分
 - 京阪四条駅より
市バス「四条河原町」(〔南座〕向いのりば) 201番、31番
「京大正門前」(所要時間 約20分)下車 徒歩約5分
 - 阪急京都線河原町駅より
市バス「四条河原町」(〔高島屋〕向い〔からふね屋珈琲店〕前のりば) 201番、31番
「京大正門前」(所要時間 約20分)下車 徒歩約5分
 - 京阪電車鴨東線丸太町駅または出町柳駅より徒歩約10分
- * お車でのご来場はご遠慮願います。

1. 参加の手続き

- 受付は京大会館1階玄関ホールで、午前9時30分から開始します。
- 参加費は学会員2,000円、学会員以外は3,000円です。

2. 演者の方へ

- 1演題12分(口演7分、質疑応答5分)
- OHP、液晶プロジェクター、スライドご使用の方は15分前までに各部屋入口受付でその旨お伝えください。
- 学会誌「産業衛生学会誌」掲載用の抄録を予め400字以内にまとめ、当日、受付にご提出ください。
- 当日、資料を配布される場合には150部程度ご用意ください。

3. 幹事会および評議員会

幹事会は京大会館215号室にて12時30分から、評議員会は102号室にて13時25分から行います。昼食を用意いたしますので差額をご負担ください

4. 懇親会

学会終了後に京大会館210号室にて懇親会を行います。多数ご参加ください。会費3,000円で当日受付いたします。

5. 認定産業医および認定産業医を目指す方へ

本学会での特別講演とワークショップへの参加により、日本医師会産業医認定制度による生涯(専門)研修2単位または基礎(後期)研修2単位が認められます。当日、医師会の受付で申請してください。

6. 産業看護職の方へ

本学会での特別講演とワークショップへの参加により、日本産業衛生学会産業看護職継続教育実力アップコースとして2単位が認められます。

第6回近畿産業医・産業看護協議会の報告

第6回近畿産業医・
産業看護協議会を開催して

実行委員長 佐野 敦
副実行委員長 吉田広子

6月23日大阪府立女性総合センターで第6回近畿産業医・産業看護協議会を開催いたしました。今回は21世紀最初の協議会となりますので、メインテーマを「21世紀の健康づくり—企業からみた健康日本21—」としました。これは産業医、産業看護職ともに関心の高い健康づくりを、昨年厚生省が作成しました「健康日本21」との関連で討議していこうという企画でした。

基調講演では厚生労働省大臣官房参事官（健康担当）の芝池伸彰先生より「健康日本21のあらまし」という演題でご講演いただきました。「健康日本21」は生活習慣病との一次予防を重視した戦いであり、行政の役割は情報の提供と環境作りであるという説明がありました。

シンポジウムでは大阪市立大学圓藤吟史教授と日本予防医学協会関西支部の植本寿満枝さんに座長の労をお願いし、「健康日本21を企業の健康づくりに如何に活かすか」と題し、シンポジストの皆様方に糖尿病対策、循環器病対策、産業医、産業看護の4つの立場から「健康日本21」を職域で如何に活かし、どのように進めていくかについて発表していただきました。全体討議の時間を1時間設定しておりましたので、会場からの質問も充分受けることができました。

今回初めて交通の便が良く収容人数の多い大阪府立女性総合センターで開催いたしました。当日はあいにくの雨で足元が悪かったにも関わらず、418人の方にご参加いただきました。

開催準備にあたりましては、近畿産業医部会、近畿産業看護部会の役員の皆様方と近畿地方会事務局の方々に絶大なるご指導とご支援をいただきました。お陰様で大過なく協議会を開催することが出来、実行委員を代表いたしまして関係各位に心から感謝申し上げます。

シンポジウム
21世紀の健康づくり
—企業からみた健康日本21—

座長：圓藤 吟史
植本寿満枝

2001年6月23日、第6回近畿産業医・産業看護協議会がドーンセンターで開催された。佐野敦実行委員長、吉田広子副実行委員長の下で企画され、418人が参加した。芝池伸彰厚生労働省大臣官房参事官から「健康日本21のあらまし」が基調講演として報告された。それを受けて、日高秀樹三洋電機保健医療センター所長が「糖尿病対策」を、岡山明岩手医科大学教授が「循環器病対策」を述べ、朝枝哲也京都工場保健会副所長が「産業医の立場より」、佐々木博子JR西日本保健婦が「産業看護職の立場より」報告があった。

芝池先生からは、健康日本21は、行動目標を数値として設定したものである。自分の行動は自分で決める（自己決定権）にまで踏み込むものではないが、行政としては環境づくり、情報提供を行うことにより行動変容の支援を促すものであると述べられた。また、質問に対し、健康日本21は費用対効果を考えて作られたものではないが、もし成功すれば、疾病予防による医療費削減効果は大きいと述べられた。岡山先生、日高先生からは健康日本21の分科会委員を務められた経験を踏まえ、戦略としてハイリスク・ストラテジーとポピュレーション・ストラテジーとがある。そういった戦略に関して、実際のところ種々の条件を考慮すると地域保健より職域の方がより効果的ではないかと述べられた。朝枝先生は、THPと健康日本21とを比較し、右肩下りの経済下で職域で取り組む際の課題について述べられた。佐々木先生からは、効果的な健康指導の実戦例が紹介され、自覚症状のない若年者などにどのように働きかけるか、その難しさについて話された。

産業保健としては、従来から健康診断、事後措置としての保健指導、THP活動、快適職場づくりを行っており、目指すところは共通している（難波正道大阪労働局労働衛生課長挨拶）。さらに、健康日本21で触れられていない、中高年男性で多発している自殺を含めたメンタルヘルス対策がある。また、誰が、いつ、どこで、何を、どのような方法で行うのか、その費用が誰が負担するのかを含め、戦術としての課題も多い。

報 告

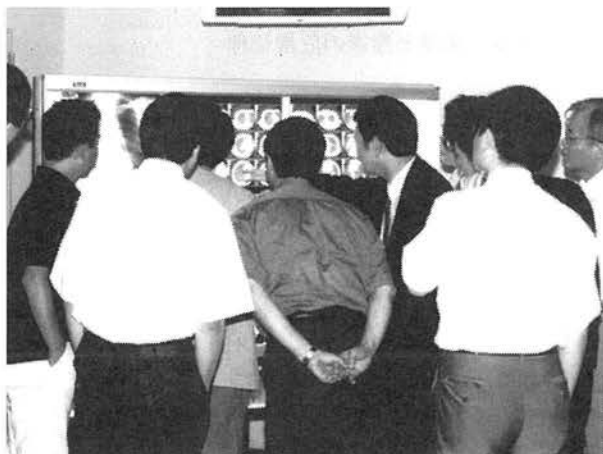
じん肺研究会

世話人

国立療養所近畿中央病院

副院長 坂谷光則

1960年に始まり、ほぼ毎年1回勉強会を続けてきたじん肺研究会も、今年は第41回目を迎えた。今回は国立療養所近畿中央病院の研修棟会議室を会場にして、同病院の放射線科審良正則医長を講師に、“じん肺のCT写真の撮り方と読影”の講演会と読影会を実施した。今年は例年になく暑い夏であったが、7月28日(土)の午後に、程良くクーラーを効かせた広い会場で、大阪府下では最も多くのじん肺患者を診療していると思われる近畿中央病院の豊富な実例写真(胸部正面およびCT写真)を駆使しての、粒状陰影を呈する例、不整形陰影を呈する例、大陰影を有する例など、珪肺と石綿肺を中心にした読影講座が続いた。その他にも、黒鉛肺やアルミ肺などの稀少じん肺の写真も提示され、20名弱であったが、阪神間のみならず、遠くは岡山や四国からも参加された職業性肺疾患専門家による熱気あふれる2時間半の勉強会は、ごく短く感じられるほどであった。じん肺病変の早期発見に向けて、CT写真の有用性はますます高まるものと考えられ、時期を得た講演会であったと思われる。講演会の後も、最近注目されている事として、歯科技工士さん達に時々みられる、金属研磨粉塵による肺異常陰影についても注意を払うべきだとする最新の情報も披露され、同時期に実施されている技工士健診を話題にして、ひとしきり座談が盛り上がった。今回の会場では、本研究会の長い歴史をまとめたパンフレットを配布したが、本研究会の世話人も、次回からは、これまで9年間勤めた坂谷から森永謙二(大阪府立成人病センター参事)先生にバトンタッチすることとなったので、ここに併せてご報告致します。



お知らせ

近畿産業看護部会特別研修会

日 時：平成13年12月4日(火)、14:00~16:00

場 所：大阪産業保健推進センター

テーマ：海外における感染症について

講 師：橋本 博先生

ケースカンファレンス研修会

大阪産業保健推進センター、(社)大阪府医師会、日本産業衛生学会近畿地方会産業医部会の三者が共催で、産業医の実践的能力レベルアップを図るためケースカンファレンス研修会を昨年度より開催致しております。今年度の予定が決まりましたのでお知らせ致します。定員は各回40名です。受講料は無料。なお、この研修会は参加者が積極的に討議を行うことが必要です。

実施場所及び日程(いずれも14:00~16:00)

地域	開催日/会場
大阪中央	平成13年10月11日(木)：9月3日受付開始 城東区医師会館：大阪市城東区今福南1-8-5
西野田	平成13年10月25日(木)：9月3日受付開始 西淀川公署医療センター：大阪市西淀川区姫島6-3-36
北大阪	平成13年11月8日(木)：9月3日受付開始 守口市市民保健センター：守口市大宮通1-13-7
羽曳野	平成13年11月15日(木)：9月3日受付開始 藤井寺市立保健センター：藤井寺市小山9-4-33
泉大津	平成13年12月6日(木)：10月1日受付開始 和泉市立保健センター：和泉市府中町4-22-5
堺	平成13年12月20日(木)：10月1日受付開始 堺市医師会館：堺市甲斐町東3-2-26
天満	平成14年1月17日(木)：10月1日受付開始 北区医師会館：大阪市北区末広町3-14
茨木	平成14年1月24日(木)：10月1日受付開始 茨木市保健医療センター：茨木市春日3-13-5
岸和田	平成14年1月31日(木)：10月1日受付開始 泉佐野泉南医師会館：泉佐野市湊1-1-30
大阪西	平成14年2月7日(木)：12月3日受付開始 大阪市西区医師会(西区産業会館7階ホール)： 大阪市西区本田2-1-30
大阪南	平成14年2月14日(木)：12月3日受付開始 住之江区医師会館：大阪市住之江区南加賀屋2-1-24
淀川	平成14年2月28日(木)：12月3日受付開始 淀川区医師会館：大阪市淀川区十三東1-18-30
東大阪	平成14年3月7日(木)：12月3日受付開始 布施医師会館：東大阪市宝持2-15-17

カリキュラム：日本医師会認定産業医制度における生涯研修：実地研修(8)その他 2単位として申請中。

受講資格：日本医師会認定産業医(開催地域産業保健センター管内の医師会会員で初回参加申込者を優先)

申込方法：「ケースカンファレンス研修会受講希望」と明記の上、受講希望日、氏名、〒・連絡先住所、TEL・FAX番号、所属地区医師会名を記載し、FAX又は郵送でお申込み下さい(先着順)。受講票の発送は致しません。定員を超えて受講して戴けない場合のみ連絡致します。また、研修会会場には駐車場はございません。

申込先、問合せ先：大阪産業保健推進センター

〒541-0053 大阪市中央区本町2-1-6

堺筋本町センタービル9階 FAX06-6263-5039

お知らせ

第75回日本産業衛生学会の学会準備の進捗状況 (3)

神戸大学大学院医学系研究科環境応答医学講座
環境医学・公衆衛生学 西尾 久英

7月21日、神戸大学医学部で開かれた企画運営委員会では、講演、シンポジウム、ディベート企画の枠組みが決定し、ほとんどのセッションで座長候補と講演者候補（あるいはディベーター候補）が決定しました。8月に入って、各セッションのコーディネータによって候補者との折衝が進められています。そして、受諾して下さった先生へは事務局から正式な依頼状が発送されることになっております。

以下に、学会企画の枠組みを示します。

- | | |
|--|--|
| (1) 学会長講演：日本のグローバル観 | (10) パネルディスカッション2：地域における産業医の活動 |
| (2) 特別講演：ボーダレス時代の企業の求める健康像
新興工業国における産業保健の展開 | (11) ディベート企画：メンタルヘルス |
| (3) メインシンポジウム：産業保健のグローバルズム
とローカリズム | (12) 教育講演：自然災害の対応
倫理（プライバシーの守秘義務等）に関する議論
化学物質のリスク管理における問題点 |
| (4) シンポジウム1：職域におけるリスクマネジメント | (13) 自由集会／研究会、産業医フォーラム、産業看護
フォーラム |
| (5) シンポジウム2：生活習慣病の一次予防：理論と
実践体系 | (14) 市民公開講座 |
| (6) シンポジウム3：労災事故障害者の職場復帰
－現状と課題－ | (15) ランチョンセミナー／イブニングセミナー |
| (7) シンポジウム4：労働形態と産業保健のアプローチ | |
| (8) シンポジウム5：メンタルヘルスケア
－適切にいった事例、不本意に
おわった事例－ | |
| (9) パネルディスカッション1：国際進出と受け入れ | |

また学会終了後に、以下の3企画が予定されております。

- (1) 特別研修会（医師会単位指定予定）
- (2) 産業医プロフェッショナルコース（修了証発行予定）
- (3) 産業看護教育研修会（実力アップコース単位認定予定）

この半年の間に、事務局では13回会議を開きました。各セッションのコーディネータ集会も数に入れると、学会準備のための会議の総計は30回は優に超えています。このように、本学会の企画に関しましては、すでに地方会の先生方から多大なご支援をいただいております。本当にありがとうございます。今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

私たちはめざします。健康の創造を！

健康診断から健康教育・健康づくり事業までトータルヘルスケア



K K C ネットワーク

■ 滋賀事業部	077-551-0500
■ 彦根事務所	0749-22-8089
■ 京都事務所	075-463-4555
■ 大阪事業部	06-6304-1532
■ 兵庫事業部	078-230-7530
■ 三重事業部	059-225-7426
■ 名古屋事業部	052-735-0821
■ 関東事業部	047-358-8274
■ 事務局	077-525-3233
■ 公益事業局	077-525-7744

<http://www.zai-kkc.or.jp/>

厚生労働大臣許可 労働者健康保持増進サービス機関

KKC 財団法人 近畿健康管理センター

第75回日本産業衛生学会・市民公開講座

タイトル：環境と健康の危機管理

- ・ 職場における健康危機管理
- ・ 医療現場における緊急時対応
- ・ 地域における環境危機管理
- ・ 学校における安全危機管理
- ・ 海外赴任者とその家族の心の危機管理
(いずれも仮題です)

お知らせ

第75回日本産業衛生学会・
産業看護教育研修会

日時：平成14年4月13日（土）9：00～12：00

会場：神戸国際会議場（501会議室）

テーマ：保健指導と作業改善

- (1) 保健指導の評価の実際について
- よりよい保健指導をめざして -
- (2) 人間工学からみた作業改善のすすめかた
いずれも仮題で調整中です

本研修会は、産業看護職継続教育実力アップコースの単位の指定を受ける予定です。

終了時に第75回日本産業衛生学会会長名で修了証をお渡し致します。

参加費、申込方法等は産業衛生学雑誌第43巻第5号を御参照下さい。

事務局：第75回日本産業衛生学会事務局
〒650-0017 神戸市中央区楠町7-5-1
神戸大学大学院医学系研究科環境応答医学講座
環境医学・公衆衛生学
FAX078-382-5559 (担当:西尾)

第75回日本産業衛生学会・特別研修会

日時：平成14年4月13日（土）9：00～16：00

会場：神戸国際会議場（メインホール）

- 演題：1) 二次健診の労災保険給付制度について
2) 死の四重奏の克服①循環器疾患の管理
②代謝疾患の管理
3) ケーススタディ -現場事例から-
4) 「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」を受けて
- 4つのケアの各ステップでの実務 -
5) 筋骨格系障害予防のための作業評価
いずれも仮題で調整中です

終了時に日本産業衛生学会理事長名で修了証をお渡し致します。

日本医師会認定産業医制度による基礎研修及び生涯研修としての単位の指定を受ける予定です。

参加費、申込方法等は産業衛生学雑誌第43巻第5号を御参照下さい。

事務局：第75回日本産業衛生学会事務局
〒650-0017 神戸市中央区楠町7-5-1
神戸大学大学院医学系研究科環境応答医学講座
環境医学・公衆衛生学
FAX078-382-5559 (担当:西尾)

第75回日本産業衛生学会・
産業医プロフェッショナルコース

この度、日本産業衛生学会産業医部会は、産業医部会員にふさわしい専門的知識と技能に優れた産業医の養成を図るため、下記要領にて「産業医プロフェッショナルコース」を開設することに致しました。このコースは、産業医活動に必要な実際のスキルとマネジメント対処能力の向上を目指しています。

日時：平成14年4月13日（土）9：00～16：00

会場：神戸国際会議場

内容：メンタルヘルスのサイエンスとマネジメント
(定員40名)

参加資格：日本産業衛生学会産業医部会員
その他の希望する医師

一定以上の産業医ノウハウを修めた産業医（例：日本医師会認定産業医修了者）
でさらなる専門的知識や技能を深めたいとする医師を対象としたコースです。

参加者には修了証を発行致しますが、日本医師会認定産業医制度における単位申請は致しません。
参加費および申込方法等は産業衛生学雑誌第43巻第5号および第6号を御参照下さい。

主催：日本産業衛生学会産業医部会

問い合わせ先：浜口伝博（日本アイ・ビー・エム）

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

日本アイ・ビー・エム人事サービス産業保健部

FAX03-5563-4907

E-mail:drhama@jp.ibm.com



■ヘルスアセスメントから健康支援を

□ライフスタイル診断

□食生活診断

□健康体力診断

□ストレス診断

□ヘルスナビ

■データベースから健康支援を

□データベース作成サービス

□パソコンソフト「ヘルシーWin」

□インターネットサービス

日本予防医学協会 <http://www.sunnet.or.jp>

本部	東京都江東区扇橋 1-21-25	TEL03-3649-3651
東日本支部	東京都江東区扇橋 1-21-25	TEL03-3649-6111
関西支部	大阪市北区西天満 5-2-18	TEL06-6362-9041
西日本支部	福岡市博多区博多駅前 3-19-5	TEL092-473-0547
名古屋出張所	名古屋市東区代官町 39-18	TEL052-931-0526
茨城連絡事務所	茨城県鹿嶋市大字光 3	TEL0299-82-7736

選挙結果報告

会員各位 選挙結果をご報告致します。有効投票数377通（有権者1123名）でした。 2001年10月1日 地方会選挙管理委員会

Table with 3 columns: 地方会長, 地方会監事, 理事. Each column lists candidates and their vote counts.

Table with 3 columns: 評議員. Lists candidates and their vote counts for the council members.

(以上113名)

近畿の産業保健活動－奈良県－

奈良県医師会における産業保健活動状況について －特に産業保健推進センター開設について－

奈良県医師会

産業医部会担当理事 竹村 恵 史



奈良産業保健推進センター
所長 有山雄基先生



竹村恵史先生

(はじめに)

奈良県医師会史年表によると、昭和47年10月1日労働安全衛生法が施行され、翌48年9月に県医産業医学会が設立されたとある。昭和30年代には、県南部吉野地区で電源開発が活発に行われ、昭和34年には88名の労災事故での死亡が挙げられている。安全の確保、労働条件の改善、それに産業医活動も加味され、労災事故の減少、公害病、職業病の解明、予防策が計られてきている。21世紀にはいり、我が国は高齢社会となり、産業の空洞化、IT技術革新等、産業を取り巻く環境の変化は著しい。又、精神面における健康の確保もしづらい世相となってきた。

産業医の使命は、重要性を増していると考えられる

(奈良県の状況)

地場産業などにおける有機溶剤および粉じんによる障害や、県内面積の大部分を占める南部山間部における林業関係者の振動障害などの問題が今なお存在している。大和盆地を中心とした北中部では、鉄道・道路の整備に伴い各企業の進出、および大阪・京都のベッドタウンの様相を呈し、人口増加地域となっている。

しかし、県内事業所の大多数は、従業員30名未満の小規模事業所であり、これらの方々に対する健康保持増進が重要な課題のひとつであると思われる。

この数年の大不況により、企業の規模にかかわらず、経営危機にさらされており、事業者は経営の安定を、また従業者は雇用の確保を重点におかざるを得ない状況となっている。産業保健活動の促進には、多くの問題が山積している。

(地域産業保健センターの活動状況)

奈良県内では、各労働基準監督署と同一の地域を管轄する北和地域産業保健センター、葛城地域産業保健センター、桜井地域産業保健センター、南和地域産業保健センターの4ヶ所のセンターが平成8年度に設置を完了している。

各センターでは窓口相談、訪問指導など産業医およびコーディネーターを中心として、地域の実情にあった様々な工夫を試みながら、積極的に活動しており、労働局、各労働基準監督署、各関係団体などとの連携を密にしながら、小規模事業所の産業保健活動活性化に寄与している。

(奈良産業保健推進センターの開設)

この年、平成8年から4ヶ所の地域産業保健センターを協力・支援し、産業保健活動の活性化の拠点、奈良産業保健推進センターを設立する為の要望が、奈良県医師会より出ている。その時の産業医部会の担当 土生久作理事(現 同部会副会長)から毎年の如く念願され、現部会会長 塩見俊次理事の時の願いが叶い、平成13年6月13日に奈良産業保健推進センターの開所式を挙行するに至った。当センター長に、有山雄基奈良県医師会会長が就任され、成功裡に開所し、既に広報活動、窓口相談等の業務が開始されている。

(奈良県医師会の取り組み)

本会では、産業保健活動を地域医療の重要な柱のひとつとして受けとめており、産業医部会を中心に産業医の資質向上と養成を目的とした研修会などの活動を展開している。

日本医師会認定医制度における認定医の資格取得を積極的に進めているところであり、本年4月現在320余名が県内で認定されている。最近では、他都道府県同様に、開業医はもとより、勤務医の資格取得者および申請希望者の増加傾向が顕著にみられ、全体の約4割程度を占める関心の高さを示している。

本会では、年間約14回程度の研修会を開催しており、特に内3回の実施研修では、労働局並びに県内各労働基準監督署の全面的な協力を得て実施している。実際に事業所を訪問し、現地にて各事業所における安全衛生管理体制の現状などの説明を受けながら職場巡視を行っている。

各参加者から疑問点や問題点が提出され、活発な討論が行われている。毎回、異なった事業所では違った製品が生産されており、工場見学、社会勉強をも兼ねたものとなっていて、非常に高い人気を博している。

一方、関係法令、労災、健康管理、健康保持増進、作業環境管理、作業管理、有害業務管理などの各項目については、労働局および専門家による研修会を開催している。

また産業保健活動推進のため、本会・労働行政・事業者団体の三者が定期的に合会を行うことにより、地域産業保健センターの抱える問題などを協議してきた。

奈良県中部橿原市に奈良県医師会メディカルセンターがあり、そこが産業保健活動の拠点となっていた。

本年県都奈良市に、奈良産業保健推進センターが誕生し、産業保健活動を支援する体制が完成したと言える。

医療制度改革で、個人の医療費負担が増加しようという政策が提出されようとしているこの時期、勤労者の健康確保を図る為の核となる当センターに対して、県医師会は最大限の協力・努力をする覚悟であります。

センター活性化の為、皆様の御指導、御助言お願い申し上げます。



「つがやきコーナー」



「産業医とは？」

三菱重工(株)神戸造船所
産業医

郷 司 純 子

最近、「産業医」って何ですかとよく聞かれます。医学部の学生からは「産業医は臨床医とどう違うのですか」という質問をよくうけます。彼らに対して、産業医というものをもっと明確にアピールできたら、産業医活動をより理解してもらえると感じます。

倫理要領によりますと産業医の究極的な役割は、「産業医学に関する公正な専門的助言者の立場に徹することにある。すなわち事業者及び従業員自身が自主的かつ積極的に職場の作業環境の改善や自分の心身の状態に関心をもち、働く人々の自己発現のために自発的に職場環境の改善や心身の健康保持増進ができるよう援助すること」と記載されております。

当社は、病院部として三菱神戸総合病院と健康管理部門が分かれており、病院は会社の向かいにあって社員は勤務時間に受診治療を受けることができます。病院があるということは、社員に安心感と一流企業としての自負をもたらしているようです。一方、産業医は社員と同じ企業倫理の中で心身のケアをしています。産業医と病院の主治医の違いについて私なりの理解はといいますと、会社と労働者の両方に対して責任をもち中立的立場であること、職場におけるすべての疾病に医学の専門家として関わること、健康な人の心身のケアに関わることかと思えます。

今年の夏は、2人の医学部6年生が産業医業務を見学にきました。臨床実習はあるけど産業医の研修はないので研修したいとのことでした。2人は私が診療所にいると思ったようで白衣持参でした。彼らが帰った後、産業医というものを理解してもらえたかなとあわただしかった一日を振り返ると共に、興味をもって尋ねてくれる若い後輩達にわかりやすく、きちんとアピールできる産業医活動をしたいものだと思います。



記念出版への期待

京都工場保健会顧問

田 中 健 一

明2002年は、4月に神戸で第75回日本産業衛生学会が開催され、5月には近畿地方会の創立50周年イベントが予定されるなど、会員にとって記念すべき年となっている。しかしこの欄で取り上げたいと思っているのは、学会そのものではなく、記念事業的意味合いをこめて学会までに上梓が計画されている、産業保健にかかわるテキストブックのことである。

私は直接編集にかかわっているわけではないので、出版の進捗状況を十分承知しているわけではない。しかし傍目で見ても、多数の地方会員執筆者によるこの書の出版前PRには意義がありそうに思えたので、この欄で取り上げさせていただくことになった。

魅力のひとつはベテランにまじって、産業保健の領域でユニークな活動を展開している多数若手執筆者の、これまでにない斬新な視点からの論述が、期待できるのではないかという思いがあることによっている。第2はこれまでこの種のテキストブックにおいて、見られることが比較的少なかった、コラムがふんだんに取り入れられ

ているらしいことである。コラムには、堅苦しい雰囲気ときほぐす意味合いもあるが、類書との近似性を排除する目的でも効果が大きいと思う。この双方とも斬新さがあり、企画が非凡であることを窺わせるものとなっている。

出版社が南江堂というのも興味深い。臨床関係では老舗といってよい出版社であるが、産業保健の領域では過去にそれほど実績が大きかったという印象はない。しかしこれは新規発刊がどんどん求められる時代にあって、出版の方向性、開拓分野に、「予防」が魅力ある存在と映じてきていることを示唆するものであるのかもしれない。

ノンフィクションライター佐野真一の「だれが『本』を殺すのか」が、巷間で大変注目を浴びている。出版事業そのものに今大変な危機が到来しているようなのであるが、これは医学書出版社にとっても例外といえないのではないのではなかろうか。その中で、切り札的役割をはたす要素のひとつが、斬新さにあることは間違いのないところであろう。出版社にとっても、記念すべき成書であってほしいと願う。

内容を熟知せず、憶測をつづったことは無責任のそしりを受けるものかもしれない。しかし「近畿地方会ニュース」は、近畿地方会会員だけでなく、それ以外の方々の目にふれる機会があるので、PRの一助となるかもしれないという思いがあったことを申し述べ、ご寛恕を得たいと思う。

「つばやきコーナー」



VDT作業現場のこと

労働衛生コンサルタント

(財)京都工場保健会

健康開発部 健康増進課

古澤 禎 司

最先端のゲーム作成現場を見る機会があった。新しくビルに入居したためか、すべてパソコンを置くことを前提とした事務机とイスが配置されている。ゲームクリエイター（企画）、デザイナー、プログラマー系は、画像解像度の関係かCRT画面を使い1人1台～2台、事務系作業者も1人1台配布されているFPD画面のパソコンで事務作業を行なっている。さすがに、全員がパソコンを使う会社だけに、作業環境面では、ほとんど問題はないようである。しかし、担当者と話さうちに、連続作業時間や筋疲労から引き起こされる疾病や障害に関する事など、従業員に対する教育がほとんどなされていないことがわかった。急成長してきた会社でもあり、安全衛生管理体制も十分機能していなかったが、今は体制も整備されつつあり、健康教育も今年度中に実施予定である。

また、違った角度からではあるが労働安全衛生上ちょっと気になることがあった。個人請負や自宅作業での問

題である。

ゲームの制作は、ある場面の背景デザインとか、動作別のキャラクターデザイン、それらを組み合わせるプログラマーなど細かく分業されて、最後に全体を組み合わせる作業になるという。このような作業形態であるからか、この会社では、従業員としてではなく個人で制作作業を請負の形態があり、自宅で作業している方もいる。これから増えていくであろうこのような自宅作業者について、労働衛生管理はVDT作業に限らずどのような仕組み作りを考えたらよいだろうか、労災といった面からもリスク管理の一環として、何らかの対策はすべきであろう。

もう一つのVDT作業現場はこれとはまったく反対の現場で、紙中心の事務作業のみの事務所に、パソコンを導入している現場をみた。

急速にパソコンが配備されている様で、現状の事務机、高さ70cm～75cmのスチール製事務机にむりやりパソコンを置いている。そのため、パソコンという荷物が一つ机に増えてしまった状態が出現している。無論従来のファイルや本など、机を占領していた物はそのままである。作業スペースも狭くなってしまっている。パソコンで事務作業を合理化する途中の段階であろうと好意的に考えたが、書類、ファイルの整理はあまりうまくない現場であった。「IT時代のVDT作業、基本に戻ってまずは書類の整理整頓から」と思わず頭に浮かんだ。



「夏休み」

関西電力(株)和歌山支店
健康管理室

金剛 千代子

今年の夏も猛暑でした。夏といえば夏休み。私はここ数年は7月20日の海の日から数日、子供たちと実家の鹿児島へ帰ることにしています。

私の田舎は鹿児島と宮崎と熊本の間境にあたる霧島の一角にあります。盆地で東の方には雄大な霧島の山々が連なり山の中腹には温泉があり、天気の良い日には湯けむりが立ち登っているのが見えます。家の近くには丸池という日本百名水の一つの池があり、池の数カ所から冷たい水が湧き出て小川となって流れています。

田舎に帰る楽しみの一つは、同級生や近所のお年寄りに出会うことです。近所のお年寄りもかつては、今の私と同じくらいのおばさんたちでした。今年は夕方に買い物に行く途中、スーパーの重い買い物袋を下げたおばさんに出会いました。仕事の帰りて今年75才になられたと

いう。とてもそんな風には思えない、60代前半に見えるくらいの元気でイキイキとした表情をされていました。畑では、額に汗をかきながら目を輝かせて自分の作った“うり”の話をしてくれるお年寄りにも出会いました。この方々の生活は、現在言われている「平均寿命」に加えて「健康寿命」を延ばそうという生き方そのものであり、色々な年の重ね方があるものだなあとしみじみ感じさせられました。

健康管理を行っていく上で「自らも実践する。」というのが私のモットーですが、最近では身体、心の健康はもちろんのこと「心の健康」、「心の活力」ということについて、この不景気で心までが活気を失っているような世の中で自分も含めてどのように健康管理をしていくかが今後の課題です。

仕事も忙しくゆったりとした時間はなかなかつくれませんが「いつもと違う生活パターン」、たとえば旅行をしたり、田舎に帰りお墓参りをしたり、色々な人々と出会うのも心の活力となりいいものです。

議 事 録

平成13年度第2回幹事会

日 時：平成13年8月27日（月）10：00～11：30
 場 所：大阪市立大学医学部学舎 12F セミナー室2
 出 席：堀口 徳永 圓藤 岡田 原 小泉直 河合
 埜田 宮上 住野 宮下 平田 河野
 田中（代高田）車谷 上田 小泉昭（計17名）
 欠 席：藤木 橋本 植本 兼高 日高 榎屋（計6名）
 事務局：清田 高田（敬称略、順不同）

報告および議題

1. 医部会報告
 岡田理事より以下の報告があった。
 (1) 第6回近畿産業医・産業看護協議会（6月23日）開催報告
 (2) 平成13年度ケースカンファレンス実施予定について
 (3) 実例集の本部産業医部会の編集について
2. 産業看護部会報告
 上田幹事より以下の報告があった。
 (1) 8月9日～11日に産業看護部会基礎コース開催報告
 (2) 第1回研究会 平成13年12月4日開催予定
 (3) 第2回研究会 平成14年2月開催予定
3. 近畿地方会選挙管理委員会報告
 宮上幹事より平成14～16年度役員選挙について以下の報告および説明があった。
 (1) 近畿地方会選挙管理委員会の構成メンバー紹介
 選挙管理委員長 車谷典男
 選挙管理委員 宮上浩史、岡田治子、古木勝也、井口弘
 (2) 地方会選挙管理委員会が行う選挙についての説明
 今回の有権者数 1123名（前回 976名）
 近畿地方会評議員割当数 113名
 投票用紙の発送 9月10日頃
 投票締め切り 9月25日
 開票日 9月29日
 開票場所 地方会事務局
 上記選挙で理事（4名）、会長（1名）、監事（2名）、評議員（113名）を選出する。
4. 第41回近畿産業衛生学会開催について
 小泉学会長から進捗状況の報告があった。
 会期 平成13年11月10日（土）
 会場 京大会場
5. 第75回日本産業衛生学会について
 住野実行委員長より7月21日に開催された第2回企画・運営委員会について資料に基づき報告され、進捗状況が説明された。
 会期 平成14年4月9日（火）～12日（金）
 特別研修会 4月13日（土）
 特に特別研修会については岡田理事から、市民公開講座については圓藤理事から説明があった。
6. 「実践最新産業医学講座」出版（平成14年3月出版予定）について徳永編集委員長より進捗状況が報告された。
7. 労働衛生史研究会（平成13年9月29日）開催について堀口会長より進捗状況が報告された。
8. 近畿地方会50周年記念事業について
 平田幹事より、資料に基づき基本的方針と役割分担

- の紹介があり、実際の活動が開始されることになった。
 9. 「産業保健専門職の倫理指針」の別冊が本部より送付されてきているので、研究会等で活用することが承認された。
 10. 第16回日本糖尿病合併症学会共催依頼について受諾の回答することが承認された。

お知らせ

学会賞、功労賞、奨励賞の候補者推薦の期間が平成13年11月10日まで延長されました。
 候補者推薦に関しては産業衛生学雑誌第43巻3号A48～49頁をご参照ください。

50周年誌編集委員会からのお知らせ

近畿地方会50周年事業の一環として、50周年誌を発行する事になりました。

つきましては、内容を豊かにするために会員の皆様の声を下記要領にて募集致します。奮ってご投稿下さい。又、近畿地方会に関する記念すべきお写真、ポスター等の資料をお持ちの方も下記へ連絡をお願い致します。

記

テーマ：「50周年誌発刊に寄せて」回想や未来の労働衛生への見解などご自由に記して下さい。

文字数：800字

締切り：平成13年12月末日

宛 先：〒569-8686 高槻市大学町2-7

大阪医科大学 公衆衛生学教室 渡辺丈眞

TEL：0726-83-1221（内線2651）

FAX：0726-84-6519

編集後記

失業率、5% M電機15000人のリストラ等最近ジャーナリズムを騒がすこの話題は、いかがでしょうか？

中小企業相手の健診機関である小生も受診者が半減したとか、健診先が倒産したとか、経営は、青色吐息です。その中で感じることは、職場にしがみついた労働者です。再就職先が見つからないので、頸肩腕障害で痛みがあってもやめない、局所廃棄装置の不備があっても改善要求をしない、等々。日本経済の7割を支える中小企業の健康管理費用は企業が赤字なら削られます。

バブルの前、今から15～20年前に逆戻りしたような感じですが、囁託産業医の皆様いかがでしょうか。

（文責 兼高）

編集委員（五十音順）

上田美代子、植本寿満枝、岡田章（編集責任）、
 兼高明生、清田郁子、日高秀樹、宮上浩史

次回発行日 2002年1月15日

次回原稿締切日 2001年11月30日